

第12回「会員情報交換会（三日会）」

2015年7月29日(水)／キリンビール横浜工場 ビアビレッジ「レストランピアポート」

第12回は、当協会の理事でキリンビール株式会社執行役員横浜工場長の勝間田達弘氏並びに副工場長の白岩泰尚氏より「キリンビールの新価値創造～そして、一番搾りのおいしさへ～」というテーマでお話をしていただいた。

暑い時期での開催となったが、勝間田工場長のお取り計らいでビアビレッジ内のレストランの2階をご用意いただいたところ、これまでで最多の80名の参加となった。

小俣会長の乾杯発声で始まった交流会の部では、準備していただいた少しずつ特徴の異なる6種類のビールの味と香りを楽しみながら、参加者間で名刺交換・情報交換を行った。そして、予定の時間を少し超えたところで、協会副会長で東京電力株式会社の村田神奈川総支社長のご挨拶で中締めとなった。



【勝間田工場長・白岩副工場長のお話】

・キリンビール横浜工場は今年で「横浜に生まれて108年」となった。現在は、キリンビールを代表する生産と物流の拠点となっており、大消費地である首都圏の拠点として主力製品を高い生産性で安定的に供給することに努力している。

・昨今、若年層を中心とした“ビール離れ”があり、多様化する嗜好を背景としてお客様にワクワクしていただける商品の開発にも注力している。

・ここ横浜工場はそうした新商品の開発拠点にもなっており、「イノベーションファクトリー横浜」として『新価値創造』を具現化するプラットフォームという新たな役回りを担っている。クラフトビール（所謂、地ビール）もその一つであり、特に同社のルーツであるスプリングバレーブルワリーは、ビールの新たな楽しみ方（味、香り、色など）を提案している。

・機能性表示食品制度を踏まえた新たな商品の開発にも取り組み、様々なシーンに合う飲み物を提案していきたい。